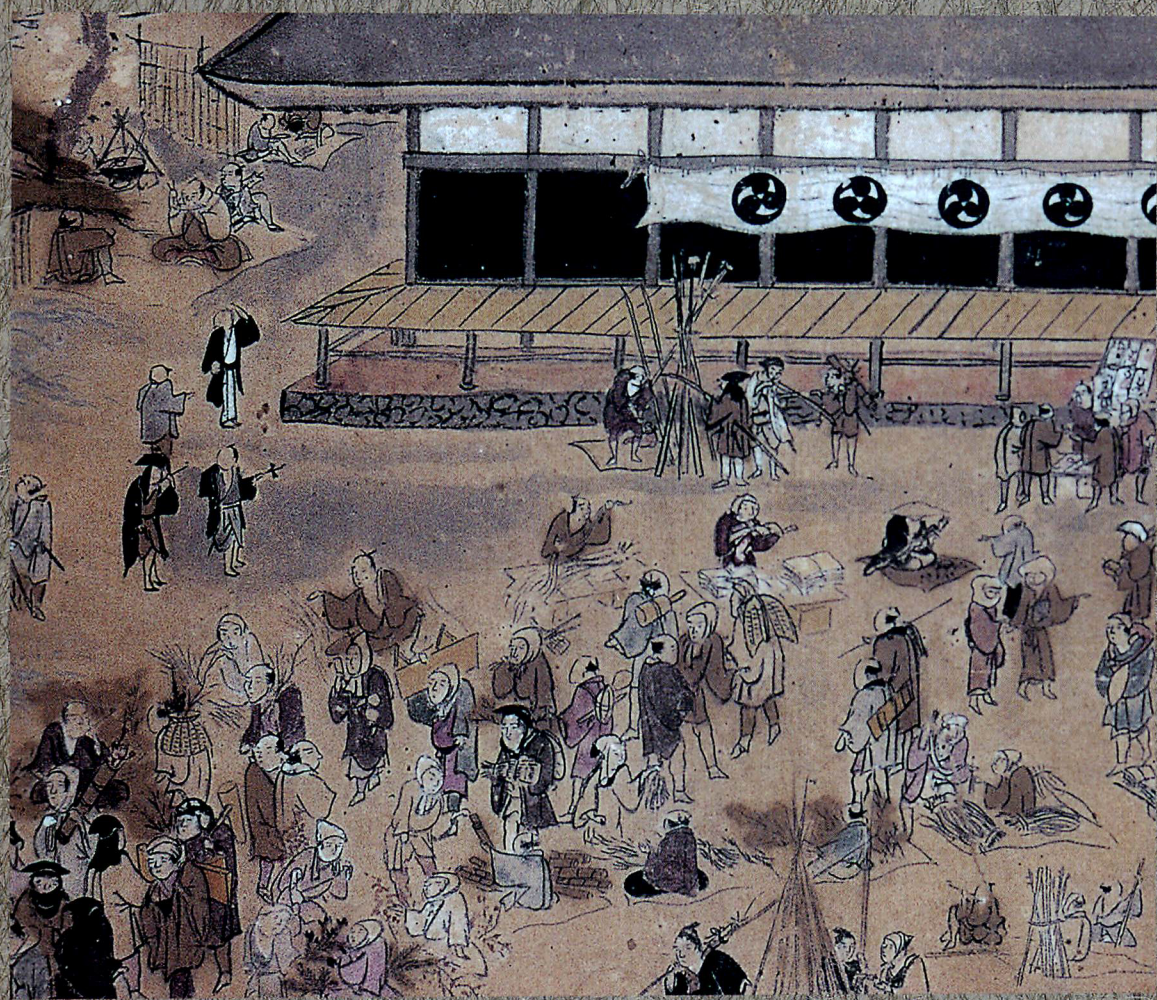


近世の庶民文化



目次

口 絵

刊行のことば

監修のことば

まえがき

凡 例

上田市誌刊行会長 上田市長 母袋 創一
東京大学教授 文学博士 佐藤 信

第一章 文字による支配と民衆

第一節 文字と文化 3

一 近世文書主義の展開 3

文書が伝えるもの 文書による支配 近世文書量の増加 文書による権利保障 文書の保管

文字学習需要と学問文化 花押と印章

二 庶民生活文化の向上 9

領内法度での規制 木綿世の風俗 流行に敏感な庶民たち 高級織物と嫁入り道具

天保十三年節句飾物儉約令 安政二年の儉約令 古式享保雛の発見 原町雛人形所大坂屋吉兵衛

祝儀にみる雛人形

第二節 庶民信仰の広がり

19

一 領主の寺社統制

19

寺社統制と本末制度 キリシタン類族と不受不施派 寺請制度と人口 仏教各宗派と庶民

真言宗寺院 曹洞宗寺院 浄土宗寺院 法華宗寺院 国分寺の文化財 遊行行者徳本

塩田四国霊場

二 村の神々

29

上田領の神々 諏訪明神の勧請 外からの神々 稲荷社、秋葉社、金比羅社 近世の生島足島神社

科野大宮社と塩野神社 常田・房山獅子 村の祭り 堂祭祀と神仏混淆

三 伊勢信仰の広がり

38

真田氏と伊勢社 伊勢参拝 おかげ参り 明和八年の流行 伊勢御師広田筑後

第二章 庶民文芸の発達

第一節 学問・思想の庶民化

47

一 士大夫の学芸

47

王朝文化への憧れ 京都伝統的世界と諸領主 上方風支配と上田 連歌と真田氏・仙石氏

能と茶道 文治政治の展開 権力と医療 藩主松平氏の学芸

二 武士の学問と庶民

56

儒学の新展開 安原貞平の学問と交友 宝暦騒動の論理と『小惣録』 桂希言と『孝民伝』

『封内孝民伝』の世界 明倫堂の創設と加藤維藩・山田維則 『独隠録』と『藩賢事略』

上野尚志と『小県郡年表』

三	文武学校の盛衰……………	63
---	--------------	----

文武学校の創設	文武学校の拡張	兵学・砲術	明倫堂の総合学園化	教育課程の改革
---------	---------	-------	-----------	---------

第二節	文芸の庶民化……………	67
-----	-------------	----

一	連歌から俳諧へ……………	67
---	--------------	----

真田信之の連歌	信濃最古の俳人忠寿	『俳江戸弁慶』の宗胖	元禄期の俳人たち
---------	-----------	------------	----------

『俳江戸桜』と『俳京桜』	雑俳の流行	立羽不角と上田	中川宗瑞の影響	雲裡坊と上田
--------------	-------	---------	---------	--------

白井鳥酔と上田	建部涼袋の上田来遊	『惣社大明神奉納』	曲川編『丁亥歳旦』	春興帳『春の笑』
---------	-----------	-----------	-----------	----------

高桑闌更と塩尻	佐藤眠郎の活躍	闌更の影響
---------	---------	-------

二	加舎白雄と門人たち……………	77
---	----------------	----

加舎白雄の活動	『田ごとのほる』の上田門人	別所・手塚と白雄	大輪寺と白雄	主な白雄門人
---------	---------------	----------	--------	--------

成沢雲帯	岡崎如毛	小島麦二・玉馬	荒井三机	斎藤雨石とその一族	児玉左十
------	------	---------	------	-----------	------

荒井争茂と菊成	井上坐井
---------	------

三	俳人の来遊と上田……………	84
---	---------------	----

小蓑庵支兀と塩尻	加藤暁台の来遊	高井几董の来遊	井上士朗の来遊	雪中庵系の木村湖丈
----------	---------	---------	---------	-----------

森田兀雨の上田定住	一茶と上田	上田に滞在した一茶	一茶の宿
-----------	-------	-----------	------

四	文化・文政・幕末上田の俳人とその周辺……………	95
---	-------------------------	----

別所の乙堂と斗入・嵐外ら	『豆から日記』の上田俳人	横山治泉の活躍
--------------	--------------	---------

『信上当時諸家人名録』の上田俳人	小蓑庵確嶺と上田	日々庵半山と『くすり草』
------------------	----------	--------------

京都で活躍した滝沢有節	異色の俳人高橋世南	上田に帰ったかった世南	海禅寺亀明の活躍
-------------	-----------	-------------	----------

幕末期の宗匠	秋和の俳人たち
--------	---------

五	文人の世界……………	108
---	------------	-----

地方文人	成沢雲帯のネットワーク	文政期の上田の文人	狂歌師田毎月丸と上田	和歌・短歌
------	-------------	-----------	------------	-------

幽学と上田の門人	上田の出版文化	
六	草莽の学問	117

心学の広がり	草莽の国学と篤胤没後門人	権田直助と田子玄誓	考古学のめばえ
七	医学の発達		120

疫病の流行	近世前期の医療	医師の誕生	上田町へ移った村医勝保道郁	上田藩医の人びと
八	和算の広がり			128

伊能忠敬と測量	天体望遠鏡と渾天儀	和算家竹内善吾武信	数学は経世治国の用
武信の門人たち	上田地方の算額	数学測量所	
九	蘭学のたかまり		133

蘭学の先駆者赤松小三郎	佐久間象山愛蔵の辞書	佐久間象山の上田藩門人
-------------	------------	-------------

第三章 庶民芸術の豊かさ

第一節	茶の流通	141
-----	------	-----

一	武家茶の展開	141
---	--------	-----

真田父子の茶	上田宗箇の茶	古田織部と仙石氏	松平忠晴と小堀遠州	松平忠周と片輪車手箱
松平家の茶道具	上田松平藩の茶頭	岸本宗宜と魚津加宗是	松平藩の茶室	

二	町人の茶と茶人の交流	152
---	------------	-----

町人の茶	斎藤家の茶	成沢雲帯の茶	山極八郎右衛門の茶	加舎白雄と茶	長谷川長兵衛の茶
沓掛讓斎の茶	白木屋土屋家の茶	幕末に行われた上田の茶会			

三	煎茶の広がり	159
---	--------	-----

上田の煎茶 上田への茶の流通

第二節 花開く庶民芸術

一 書の世界

上田小県地方の書家たち

川合殷成の来住

儒学者安原貞平

俳人加舎白雄

学問師範桂希言

実相院僧寛融

亀田鵬斎と上田

活文禪師と佐久間象山

僧璞紋の書

竹内善吾・加藤維藩・恒川重遠

古松白鷺と御家流

二 絵画のたしなみ

絵師の誕生

上田の狩野派絵師

服部半左衛門元戴

農民出身画家狩野永琳

絵を楽しむ町人たち

椿椿山門人林霞峰と『江戸家乗』

横町出身画家木村喬輔

蝶蛾の画家合葉文山

練斎・玉僊・亭山

三 遊びと文化

信濃の蹴鞠

上田の蹴鞠

沓掛家の蹴鞠と將軍上覧

曲馬乗り見物

石尊の辻と江戸相撲

雷電の活躍と相撲興行

工藤孫兵衛・稲妻祐助

奉納相撲と若者組

插花・囲碁

執筆分担

あとがき

参考文献

上田市誌の編さん組織

表紙

八日堂縁日図（信濃国分寺蔵）

この八日堂市で農業に必要な種子や農具、日常生活の必需品が商われて、物資購入の機会にされていた。

裏表紙

紙本花鳥人物屏風（上田市前山龍光院蔵）

天明期の農民出身画家 狩野永琳の代表的作品

上田市誌 歴史編(10)

近世の庶民文化

発行 平成十六年三月一日

編集者 上田市誌編さん委員会

発行者 上田市

上田市誌刊行会

上田市大手一―二―二六

電話 〇二六八―三二―四二〇〇

印刷所 信毎書籍印刷株式会社

長野市西和田四七〇